

糖尿病だより

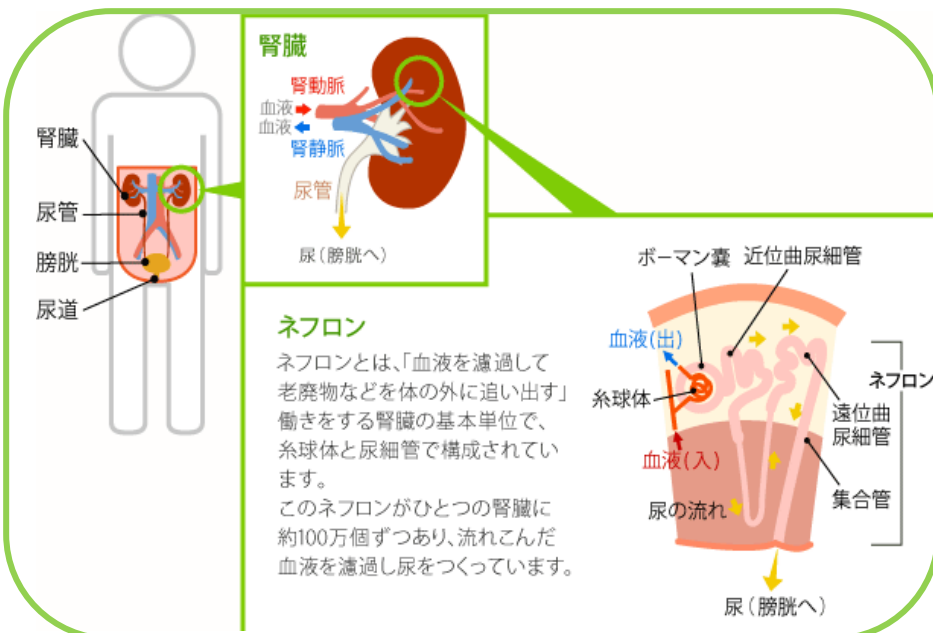
2013年10月
No.29

～臨床検査科より～

尿中微量アルブミン検査について

【大切な腎臓の働き】

腎臓は、体内の血液をろ過して老廃物を尿として排出させる働きをします。糖尿病になり高血糖が続くと、血液のろ過がうまくいかず、本来はろ過されない蛋白質などの成分が尿に出てしまったり、ろ過されるべき老廃物がたまってしまったりと、腎臓の機能が徐々に低下していきます。このように高血糖が原因で、腎臓のろ過機能がうまく働かなくなる合併症を糖尿病性腎症といいます。



【人工透析導入原因の第1位は糖尿病】

腎症を発病後、放置しておくと、最終的には腎不全に至ります。

腎不全状態となると、人工透析療法が必要になってしまいます。

現在、新たに人工透析を受ける人の中で、糖尿病性腎症の方は約40%と、透析導入原因の第一位となっています。そしてこの人数は毎年増えています。

【腎臓を守るために】

高血糖により腎臓が悪くなると、尿中に蛋白質が出てきます。しかし、初期の段階では尿の中に微量の蛋白質しか出ないので、通常の尿検査では判別できません。蛋白尿を認める頃には、かなり腎症が進行してしまっています。

微量の蛋白質、アルブミンを判別できる「尿中微量アルブミン検査」であれば、初期の段階で糖尿病性腎症と診断することができます。腎症は早期に発見して治療をすれば進行を抑えることが出来ます。尿中微量アルブミン検査にて早期に診断し、厳格な血糖・血圧コントロール等の適切な治療を施すことが大切です。



糖尿病のコントロールには食事・運動などの生活習慣を変えることと、その継続が欠かせません。皆様の糖尿病療養に役立つ情報をこの「糖尿病だより」で発信していきます。

糖尿病療養指導スタッフ一同

国立病院機構 姫路医療センター